

令和6年度シマフクロウ傷病個体收容結果

表1 平成6～令和6年度シマフクロウ傷病個体收容結果（令和7年3月31日時点）

年度	交通事故	列車事故	感電事故	羅網	溺死	捕食・襲撃	調査時收容	その他	(件)		(羽)	
									不明	死体	生体	收容個体数
平成6				1			2		2	2	3	5
7	1						2	2		3	2	5
8							2		1	1	2	3
9	2		1		1	1	2	1		4	4	8
10	2			2						1	3	4
11	1			1	1		1		1	4	1	5
12	1			1			1				3	3
13	3					1			2	5	1	6
14			1	3			1		1	3	3	6
15	1							1		2		2
16	1		1	1	1	1			4	9		9
17	2					1	1		1	2	3	5
18			1			2		1		4		4
19	2		2	2		1				3	4	7
20	1		1	1	1		2			5	1	6
21	2			1				1		3	1	4
22	3		2			2		1		4	4	8
23	1				2	1	1	3	2	5	5	10
24			1		2	1			2	6		6
25	1			1		2	2	1	2	6	3	9
26	1					1		1	1	3	1	4
27	3					1	2			5	1	6
28			1			1	1		2	5		5
29								1		1		1
30	3	1			1			3		5	2	7
令和元	3	1	1	2			2		1	8	2	10
2	1	2	1	1	1	2	1			8	1	9
3	2							1	2	5		5
4	2							2	2	5	1	6
5	4		2		1	1			1	9		9
6	1				1				3	5		5
計	44	4	15	17	12	19	23	19	30	131	51	182

※1 表中のデータはシマフクロウ保護増殖事業計画が策定された翌年の平成6年度からとした。

※2 各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体が存在することによる。
平成30年度：「溺死」と「その他」が1羽

※3 「調査時收容」は、標識調査時に生育に異常が見られた個体又は死体を收容したものとなる。ただし、キツネ等他の動物に襲われたと考えられるものは捕食・襲撃に分類した。

※4 「その他」には、栄養不良、トラバサミ、電柱の金具への引っかかり、集合煙突内への侵入、他の個体による襲撃、感染症疑い、内科疾患等が含まれる。

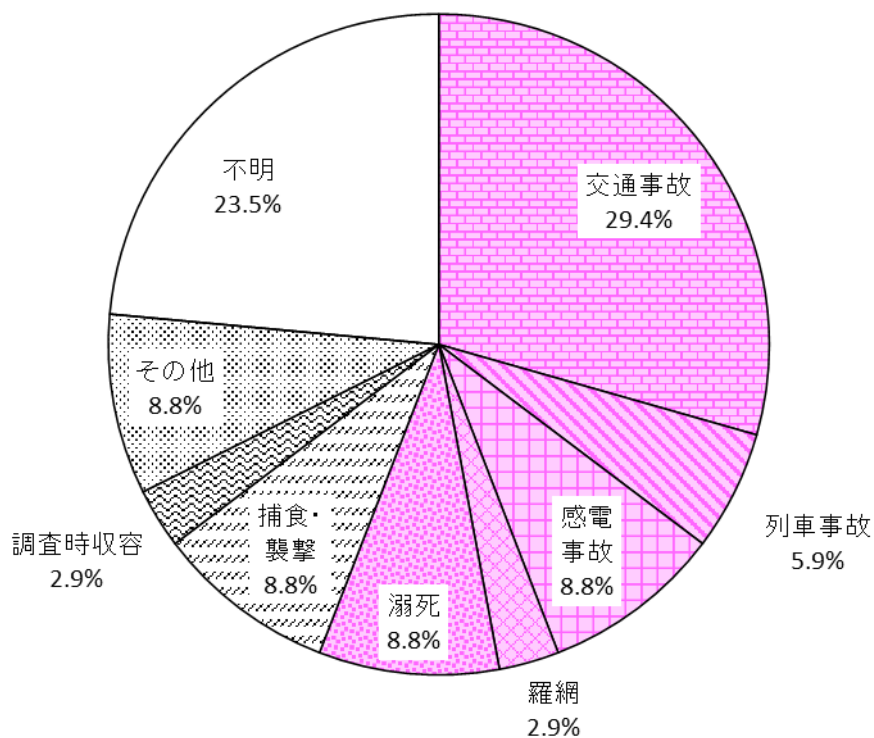


図1 シマフクロウ収容原因別割合（平成6～令和6年度）
 ピンク色は人為的な要因が関わる収容を示す

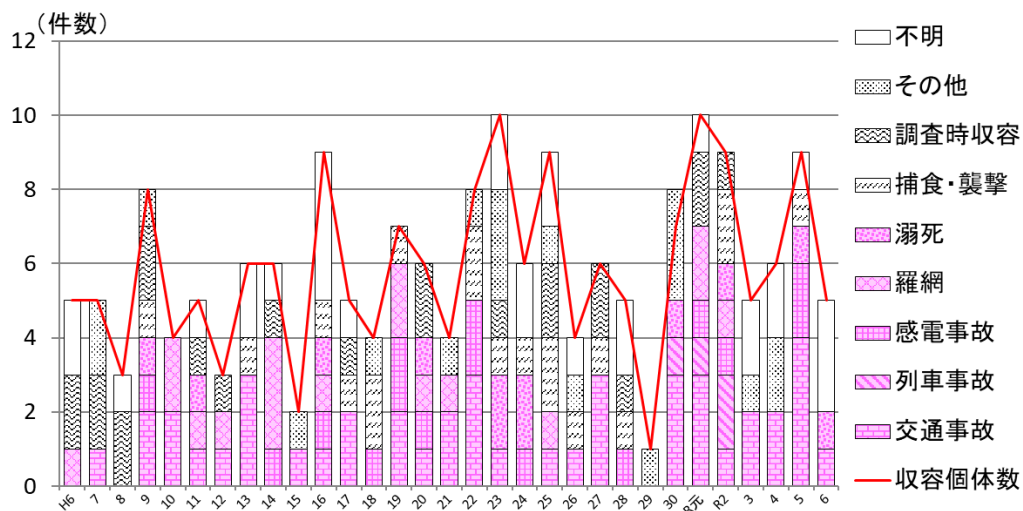


図2 シマフクロウ年度別収容件数（平成6～令和6年度）
 ピンク色は人為的な要因が関わる収容を示す

※各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体が存在することによる。